幼児教育にたずさわる者

中谷久子

最近多い青少年の凶悪犯罪を思うとき、現在の社会環境、家庭環境、そしてまた教育のあり方について、国民全体が真剣に反省し、協力一致その善導に最善の努力をしなければならないのではないか。

新しい時代の道徳、住みよい社会をつくる教育はどうあるべきかを考えるにあたって、教育者はどうあるべきかについて反省することも大切であると思う。

教育はそれぞれの発達段階に応じて適切に、しかも間断なくおこなわれなければならない。幼児期には幼児期でなければ出来ない教育がある。私は私の体験を通して考える、幼稚園の教師のあり方について記して見たいと思う。

人間性を豊かに

幼児期はその発達段階から見て、感情の教育が非常に大切であるが幼児の円満な心情を育てるものは教師の円満な人がらである。頭脳明析であっても、温い人間性に欠けているならば、真の心と心のふれあいはなく、生命の通った教育は望めないのである。幼稚園は特に教育愛に満ちた、人間性の豊かな人であることが望ましい。

心身を健康に

教師の心身健康は幼児に非常に大きい影響を及ぼすものである。陰気で不健康な教師の組の子どもは、自然に活気のない病的な子どもに育ち、健康で潑剌とした教師に接する子どもたちは、明るく活気に満ちて伸び伸びとしている。教師は常に心身共に健康に、明朗快活であってほしいのである。

個々の子どもを見つめて

幼児期における一般的な発達の水準はあっても、個々子どもは同じように成長発達しているものではない。それぞれの子どもが身体的にもまた精神的にも、その発育状態により、環境によってその能力が違い、要求するところも同じではない。教師は常に個々の子どもを見つめ、その子どもの能力に応じ、要求するところを知って、適切な指導をなし、子どもに十全感を与えることが大切である。

実践窮行する

未分化であり知的には未だ発達していない幼児には、いくら口で言って聞かせても、その教育効果を挙げるものではない。教師自らが実践し、子どもと共に窮行することによって、知らず知らず身についていくのである。ごみごみとして雑然とした保育室から、清潔整頓の芽生は培われないであろう。教師のけいけんな態度なくして子どもにそれを求めることは出来ない。言うと共に実践窮行する教師でありたいものである。

研究意欲に燃えて

人工衛星が飛び宇宙旅行も夢ではないといわれる近代社会において、幼児教育にたずさわる者といえども、新しい時代に即応した教育のあり方について研究を続けなければならないのである。日常の保育においても常に研究して止まない燃ゆる熱意は、常にその人を向上させるものである。

以上述べたことは幼児期の教育は、人と人、心と心とのふれ合いによっておこなわれる教育であるが故に私の痛感する諸点をあげたのである。幼児を取りまく物的、人的両面の環境のよさを必要とすることはいうまでもないが、その人のよろしきを得るならば、物的環境の欠陥はある程度補われ充たされていくのである。

三つ子の魂百までといわれている如く、幼児期は人格の基盤が築かれる大切な時期であり、その教育に当る者の言動は、そのまま幼児に反映するものであり、あやまった教育は取返しがつかないのである。この重大な責任を十分に感じ、園長をはじめ職員一同とけ合った和の中に、子どもと共に絶えず学び、自己を伸ばしていきたいと念願して止まない。

（神戸市立楠幼稚園長）